令和８年度 総合教育会議

資料１

これからの高校教育について

～札幌市立高校のミッション～

令和８年９月２日

札幌市教育委員会

本日の予定

01　高校教育を取り巻く現状

02　市立高校改革のあゆみ

03　卒業生の声

04　これからの市立高校について

高校教育の役割

【現行の学習指導要領が目指す資質・能力】

未知の社会や生活に生きて働く **「知識及び技能」**

未知の状況にも対応できる **「思考力、判断力、表現力等」**

学んだことを人生や社会に生かそうとする **「学びに向かう力、人間性等」**

小・中学校での義務教育で培った基礎の上に、
生徒一人ひとりが自己の進路を切り拓き、社会の担い手として自立していくため、
義務教育と社会・高等教育を繋ぐ「架け橋」としての役割。

学習指導要領の改訂に向けた国の審議

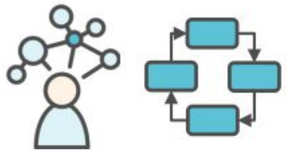
次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

生涯にわたって主体的に学び続け、 多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

1 「主体的・対話的で深い学び」の実装（Excellence）



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図る

2 多様性の包摂（Equity）



子供たちの多様性を包摂することで、一人一人の意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育を実現する

3 実現可能性の確保（Feasibility）



持続可能な在り方を追求し、教師と子供の双方に「余白」を創出することで豊かな学びに繋げる

改定スケジュール（高校）※予定

- 令和９年度末改訂
- 令和１１年度～　先行実施
- 令和１４年度～　学年進行で順次実施

【出典】中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」資料

国の高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）

令和８年２月
公表

～2040年に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」～

世界規模で、人・モノ・金・情報がグローバルに流通し、産業構造や社会システムの「非連続的」とも言えるほどの激しい変化や、AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展が止まることのない時代に突入

2040年問題

・少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化

・労働力需給ギャップや、産業界のニーズに応じたいわゆる理系人材の不足が生じる可能性

・「自ら問いを立てる力」「他者とともに価値を創り出す力」が評価される時代へ

取組の方向性

以下の3つの視点で高校改革を進める

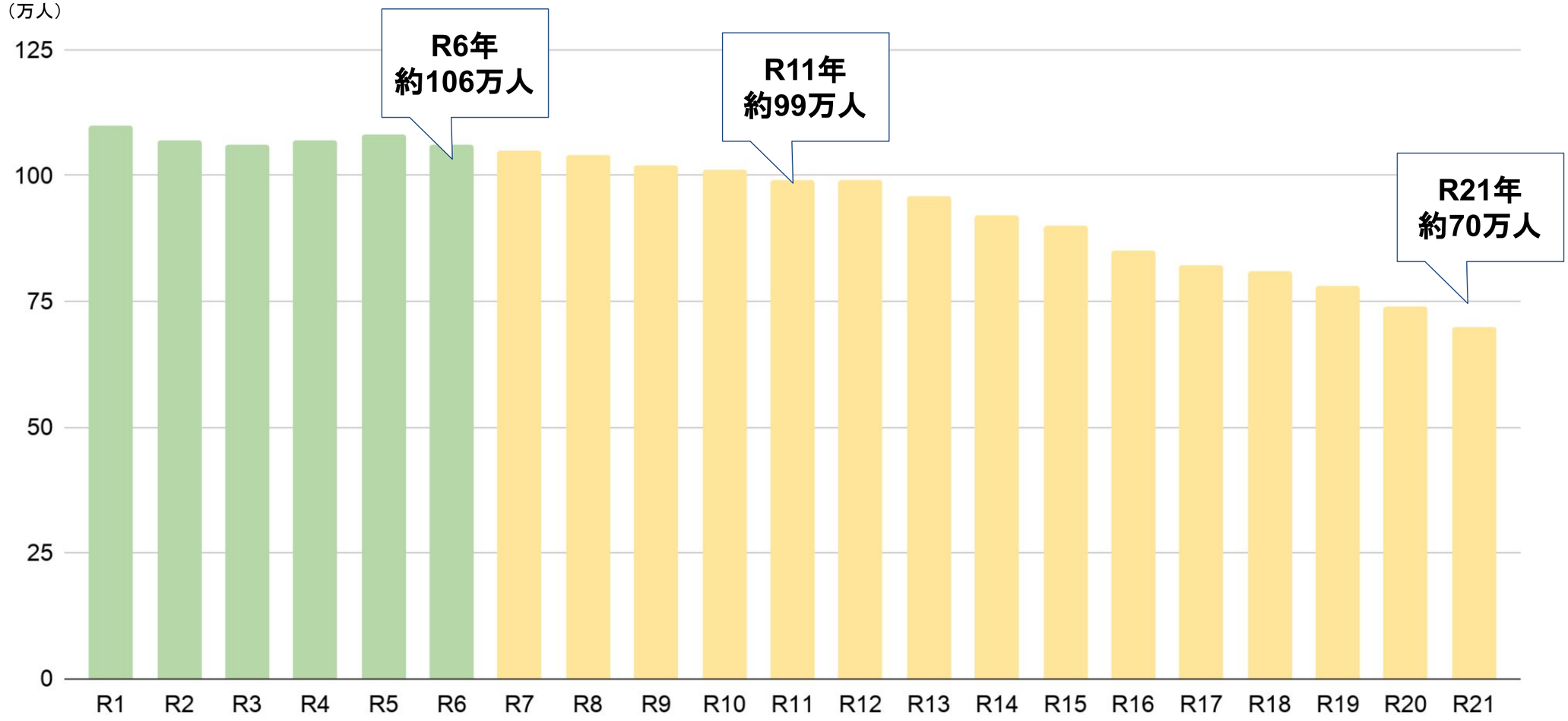
〈視点1〉
　不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

〈視点2〉
　我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

〈視点3〉
　一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

中学校卒業者数の減少（全国）

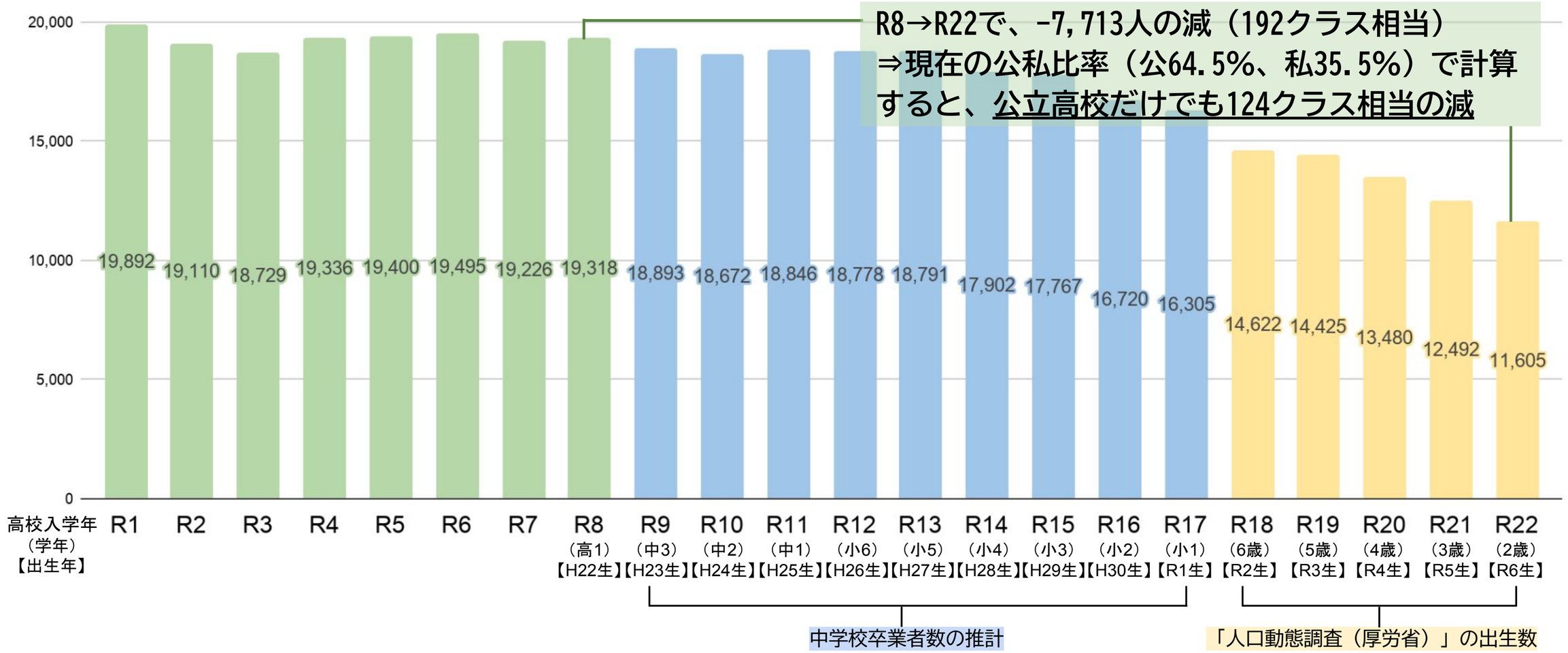
15歳人口は年々減少。これまで100万人を超えて推移してきたが、R11年には100万人を下回る見込み。
R21年には約70万人程度となり、R6年と比較して**約34%も減少**する見込み。



※R1～R6までは、総務省統計局人口推計の各年の年齢別人口より　※R7～R21は、総務省統計局人口推計の令和6年10月1日現在の年齢別人口より

中学校卒業者数の減少（石狩学区）

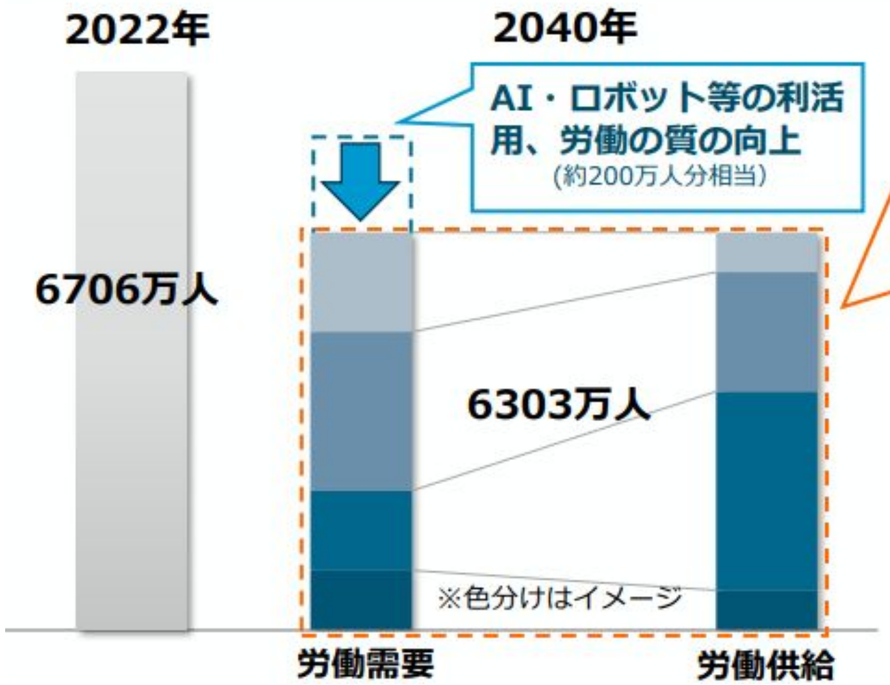
ここ数年は増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいで推移するものの、R14年度以降は減少に転じる見込み。
現在の2歳が高校に入学するR22年度には、R8年度と比較して**7,713人の減少（192クラス相当）**が見込まれる。



【出典】北海道教育庁石狩教育局「令和 8年度第2回公立高等学校配置計画地域別検討協議会」資料

2040年の就業構造推計の概要（全国）

- 2040年に十分な国内投資や産業構造転換が実現する場合(注)、人口減少により就業者数は約6700万人(2022年)から約6300万人となるが、**AI・ロボット等の利活用やリスキリング等により労働需要が効率化され、全体で大きな不足は生じない。**
- 一方で、職種・学歴・地域間では需給ミスマッチが生じるリスクがあり、**事務職(約440万人)や文系人材(約80万人)が余剰、AI・ロボット等利活用人材(約340万人)を含む専門職や現場人材(約260万人)、理系人材(約120万人)が不足する**可能性。



職種・学歴間のミスマッチ

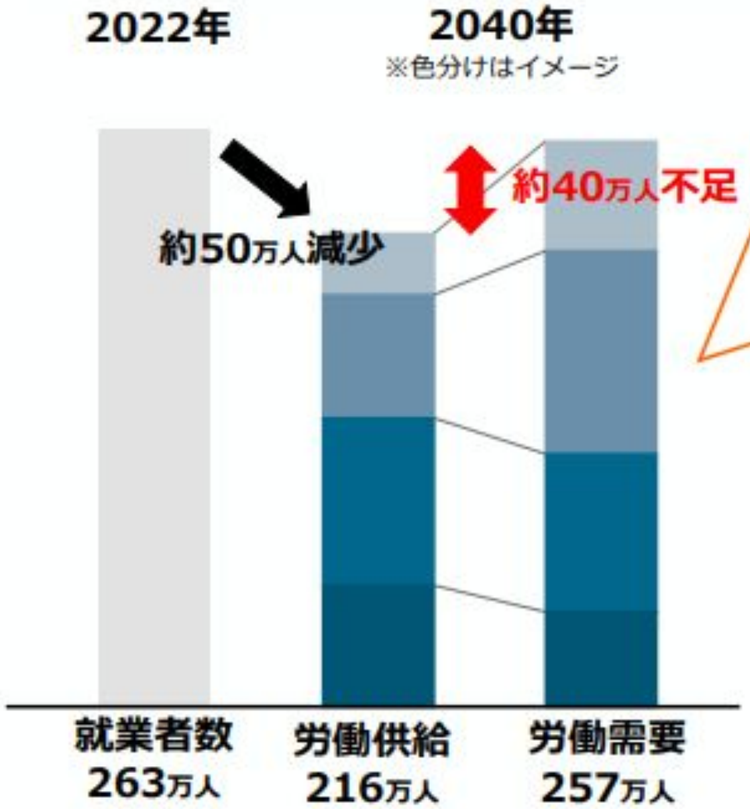
職種別	専門職	うち AI・ロボット等の利活用を担う人材	事務職	現場人材	うち 生産工程従事者
2040年 需給ミスマッチ	-181万人	-339万人	437万人	-260万人	-206万人
2040年需要数/供給数	1867万人/1686万人	782万人/443万人	1039万人/1476万人	3283万人/3023万人	731万人/525万人
2022年就業者数	1288万人	236万人	1455万人	3637万人	835万人

学歴別	高卒（普通科）	高卒（工業科）	高専卒	大卒・院卒 理系	大卒・院卒 文系
2040年 需給ミスマッチ	32万人	-91万人	-15万人	-124万人	76万人
2040年需要数/供給数	778万人/810万人	538万人/448万人	77万人/62万人	899万人/775万人	1549万人/1625万人
2022年就業者数	899万人	534万人	64万人	689万人	1678万人

【出典】経済産業省経済産業政策局「2040年の就業構造推計（改訂版）」

2040年の就業構造推計の概要（北海道）

- 2040年にかけて**就業者数が約50万人減少**する中、2040年時点では**全体で約40万人不足**となり、事務職で余剰となる以外は、**ほとんどの職種・学歴で人材不足**となる可能性。



職種・学歴間のミスマッチ

職種別	専門職	うちAI・ロボット等の利活用を担う人材	事務職	現場人材	うち生産工程従事者	うちその他現場人材
2040年需給ミスマッチ	-17万人	-17万人	7万人	-30万人	-8万人	-22万人
2040年需要数	69万人	28万人	43万人	140万人	21万人	119万人
2040年供給数	52万人	10万人	50万人	110万人	13万人	97万人
2022就業者数	50万人	5万人	55万人	154万人	24万人	129万人

学歴別	高卒（普通科）	高卒（工業科）	高専卒	大卒理系	院卒理系	大卒文系	院卒文系
2040年需給ミスマッチ	-5万人	-6万人	-1万人	-7万人	-2万人	-8万人	-0万人
2040年需要数	34万人	20万人	3万人	26万人	7万人	59万人	4万人
2040年供給数	29万人	15万人	2万人	19万人	6万人	51万人	4万人
2022就業者数	53万人	20万人	3万人	20万人	4万人	40万人	2万人

【出典】経済産業省産業人材課「地域の産業人材育成について」

国の高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）

専門高校の機能強化・高度化

（学校のイメージ）

地域発のイノベーションを興すことのできる人材育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組む学校

（取組例）

・ビジネス経験の必修化
・ものづくりから流通までの一体的な学びの実践　など

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化

（学校のイメージ）

文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組む学校

（取組例）

・実社会につながる生きた授業の実践
・探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築　など

地理的アクセス・多様な学びの確保

（学校のイメージ）

学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組む学校

（取組例）

・学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
・他の学校種との連携の充実　など

高校支援

国

高校教育改革に関するグランドデザイン策定

都道府県

実行計画を策定

将来

安定財源を確保した上で
交付金等の新たな
財政支援の
仕組みを構築

高校授業料の無償化

・入学者が**私立高校へシフトしている傾向**が見られる。ただし、その度合いは地域ごとにばらつきがある。

高等学校就学支援金制度（R7～R8年度）

公立高校（全日制）へ通う生徒
R7年度・R8年度
支給上限額　11万8,800円
所得制限　なし

私立高校（全日制）へ通う生徒
R7年度
支給上限額　39万6,000円
所得制限　590万
※　590万を超える場合は、上限額11万8,800円

R8年度
支給上限額　45万7,200円
所得制限　なし

※新たな制度の検証については、法施行後、3年以内の期間に十分な検証を行った上で、必要な制度の見直しを実施。（法附則第5条）

高等学校第一学年在籍者数の推移（令和7年度：5月1日現在、令和8年度：4月1日現在）

全道

公立高校
R7年度 24,995人 → ▲951人 → R8年度 24,044人

私立高校
R7年度 9,479人 → ＋936人 → R8年度 10,415人

在籍者数全体に占める私立高校の割合が、**約2.7ポイント上昇［過去10年間で最大の伸び率］**

学区別

私立高校の在籍者数の割合が増加した主な学区の状況

学区名	R7年度	R8年度	差
胆振西学区	184人	240人	＋ 56人　＋5.5ポイント
上川南学区	966人	1,076人	＋110人　＋4.0ポイント
石狩学区	5,999人	6,670人	＋671人　＋3.7ポイント
胆振東学区	400人	439人	＋ 39人　＋2.8ポイント
十勝学区	555人	572人	＋ 17人　＋1.4ポイント

【出典】北海道教育庁学校教育局「高等学校授業料無償化に係る影響分析（速報）」資料

本日の予定

01　高校教育を取り巻く現状

02　市立高校改革のあゆみ

03　卒業生の声

04　これからの市立高校について

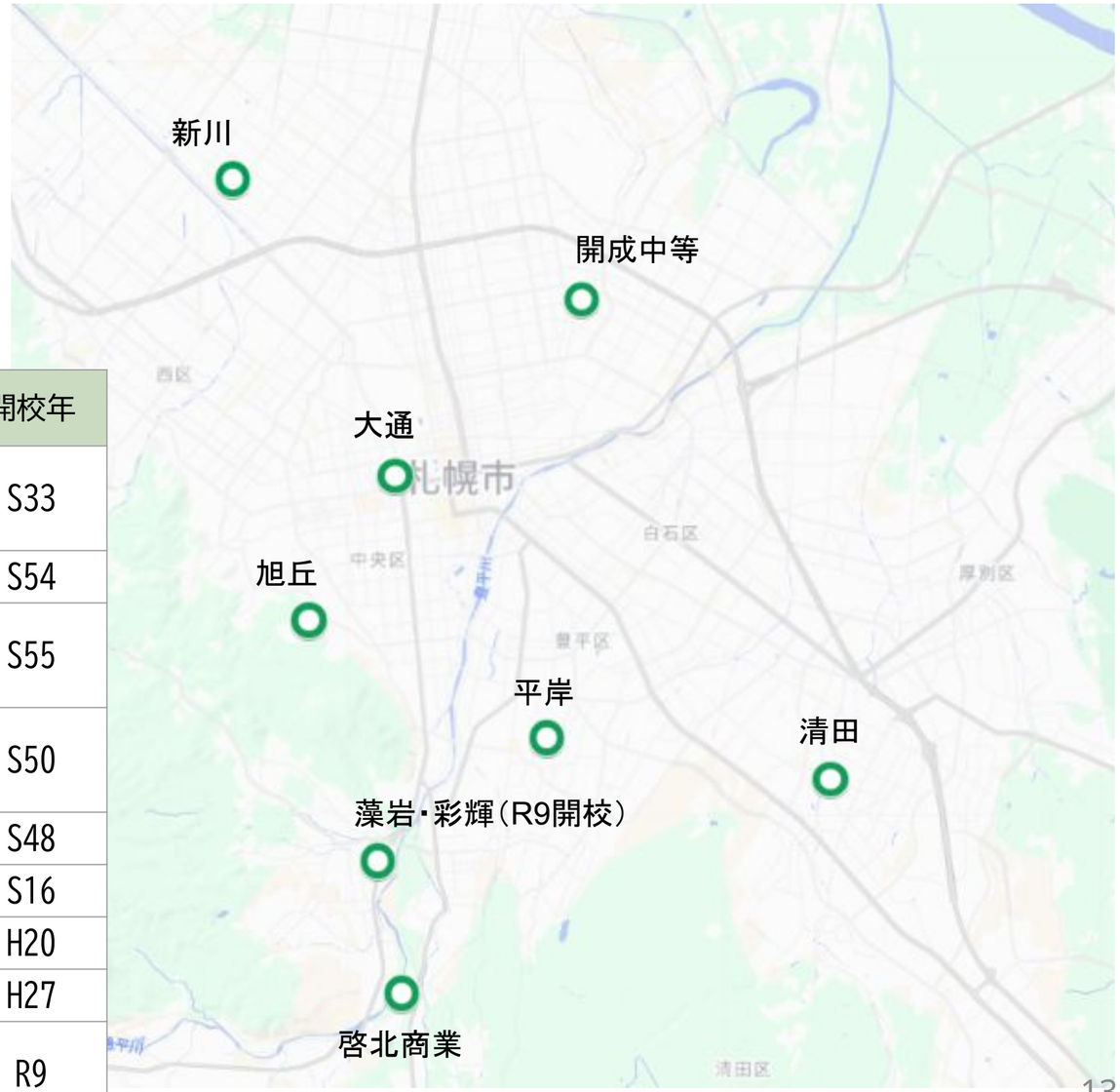
市立高校等の概要

【市内学校数（R8年4月時点）】※中等教育学校を除く

	道立	市立	私立
全日制	１８	6	１６
定時制	1	1	0
全日・定時併置	7	0	1
合計	２６	7	１７

【市立高校等一覧】

学校名	学科・コース	学級数（1学年当）	開校年
旭丘高校（単位制）	普通科	6	S33
	数理ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ科	2	
新川高校	普通科	8	S54
平岸高校	普通科	7	S55
	普通科ﾃﾞｻﾞｲﾝｱｰﾄｺｰｽ	1	
清田高校（単位制）	普通科	5	S50
	普通科ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺｰｽ	1	
藻岩高校（単位制）	普通科	6	S48
啓北商業高校	未来商学科	6	S16
大通高校（定時制・単位制）	普通科	8	H20
開成中等教育学校（単位制）	コズモサイエンス科	4	H27
彩輝高校（単位制）	未来デザイン科	5	R9
	ﾋﾞｼﾞﾈｽｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ科	3	



2003年（平成15年）～
札幌市立高等学校改革推進計画

2017年（平成29年）～
札幌市立高校教育改革方針

2023年（令和5年）～
札幌市立高校教育改革方針（改訂版）

①各学校の魅力化・特色化

生徒の多様な興味・関心、進路希望に対応し、生徒一人ひとりの個性を最大限に伸長させる特色ある学校づくりを推進。

②市立高校合同の取組

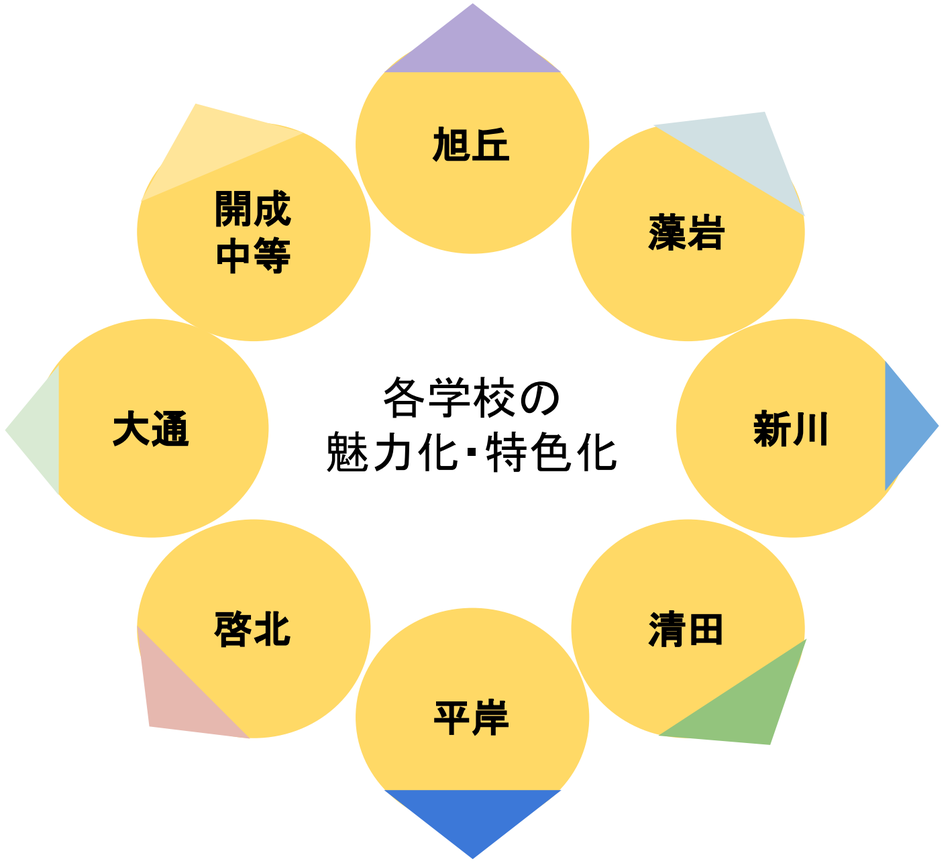
他校の生徒との交流、学び合いの中で生徒同士が高め合える、学校の垣根を超えた学びの場の創出。

③地域等との連携・協働による学び

地域や企業、大学等との連携を一層強化。
学校外の教育資源を最大限活用し、地域社会に開かれた特色・魅力ある教育活動を充実。

①各学校の魅力化・特色化

- 2004年　旭丘高校が単位制に移行
  開成高校にコズモサイエンス科を開設
- 2005年　平岸高校にデザインアートコースを設置
  清田高校にグローバルコースを設置
  啓北商業高校の商業科を未来商学科に学科改編
- 2008年　三部制・単位制の新しいタイプの定時制高校を開校（大通）
- 2015年　開成高校を改編し市内初の中等教育学校開校（開成中等）
- 2020年　清田高校が単位制に移行
- 2021年　藻岩高校が単位制に移行
  各校のスクール・ミッションを再定義、三つの方針（ポリシー）の策定・公表
- 2022年　旭丘高校に数理データサイエンス科を開設



①各学校の魅力化・特色化

- 2004年　旭丘高校が単位制に移行
  開成高校にコズモサイエンス科を開設
- 2005年　平岸高校にデザインアートコースを設置
  清田高校にグローバルコースを設置
  啓北商業高校の商業科を未来商学科に学科改編
- 2008年　三部制・単位制の新しいタイプの定時制高校を開校（大通）
- 2015年　開成高校を改編し市内初の中等教育学校開校（開成中等）
- 2020年　清田高校が単位制に移行
- 2021年　藻岩高校が単位制に移行
  各学校のスクール・ミッションを再定義、三つの方針（ポリシー）の策定・公表
- 2022年　旭丘高校に数理データサイエンス科を開設



①各学校の魅力化・特色化

- 2004年　旭丘高校が単位制に移行
  開成高校にコズモサイエンス科を開設
- 2005年　平岸高校にデザインアートコースを設置
  清田高校にグローバルコースを設置
  啓北商業高校の商業科を未来商学科に学科改編
- 2008年　三部制・単位制の新しいタイプの定時制高校を開校（大通）
- 2015年　開成高校を改編し市内初の中等教育学校開校（開成中等）
- 2020年　清田高校が単位制に移行
- 2021年　藻岩高校が単位制に移行
  各学校のスクール・ミッションを再定義、三つの方針（ポリシー）の策定・公表
- 2022年　旭丘高校に数理データサイエンス科を開設

【各高等学校に期待される社会的役割等の再定義】

高等学校の設置者が、各校や立地する市区町村等と連携しつつ、各校に期待される社会的役割（いわゆるスクール・ミッション）を再定義し、高等学校の役割・理念を分かりやすく提示。

【高等学校における「三つの方針」の策定・公表】

高等学校が、入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものとするため、以下の「三つの方針（いらゆるスクール・ポリシー）」を策定し、公表。

〇育成を目指す資質・能力に関する方針
〇教育課程の編成及び実施に関する方針
〇入学者の受け入れに関する方針

①各学校の魅力化・特色化

- 2004年　旭丘高校が単位制に移行
  開成高校にコズモサイエンス科を開設
- 2005年　平岸高校にデザインアートコースを設置
  清田高校にグローバルコースを設置
  啓北商業高校の商業科を未来商学科に学科改編
- 2008年　三部制・単位制の新しいタイプの定時制高校を開校（大通）
- 2015年　開成高校を改編し市内初の中等教育学校開校（開成中等）
- 2020年　清田高校が単位制に移行
- 2021年　藻岩高校が単位制に移行
  各学校のスクール・ミッションを再定義、三つの方針（ポリシー）の策定・公表
- 2022年　旭丘高校に数理データサイエンス科を開設



SSH
Super Science High school



①各学校の魅力化・特色化

- 2004年　旭丘高校が単位制に移行
- 開成高校にコズモサイエンス科を開設
- 2005年　平岸高校にデザインアートコースを設置
- 清田高校にグローバルコースを設置
- 啓北商業高校の商業科を未来商学科に学科改編
- 2008年　三部制・単位制の新しいタイプの定時制高校を開校（大通）
- 2015年　開成高校を改編し市内初の中等教育学校開校（開成中等）
- 2020年　清田高校が単位制に移行
- 2021年　藻岩高校が単位制に移行
- 各学校のスクール・ミッションを再定義、三つの方針（ポリシー）の策定・公表
- 2022年　旭丘高校に数理データサイエンス科を開設
- 2027年　彩輝高校が開校



①各学校の魅力化・特色化

札幌彩輝高等学校

スクール・ミッション

地域と社会に学び、対話と挑戦を核とし、探究と実学を通して学びを深め合いながら本物の経験を積み重ね、多彩な未来を自分たちの手で創れる人を育成する学びの場

Future Design Department

未来デザイン科

（普通科・定員200名）

ありたい未来の姿を描きながら、
他者と協働し、形にできる人を育成

Business Innovation Department

ビジネスイノベーション科

（商業科・定員120名）

地域や社会に変化を生み出し、
未来のビジネスをリードできる人を育成

彩輝高校の特徴

枠を超えたつながり

- 学科や学年を超えた相互の学び
- 自分や他者とのつながり
- 大人や地域・社会とのつながり

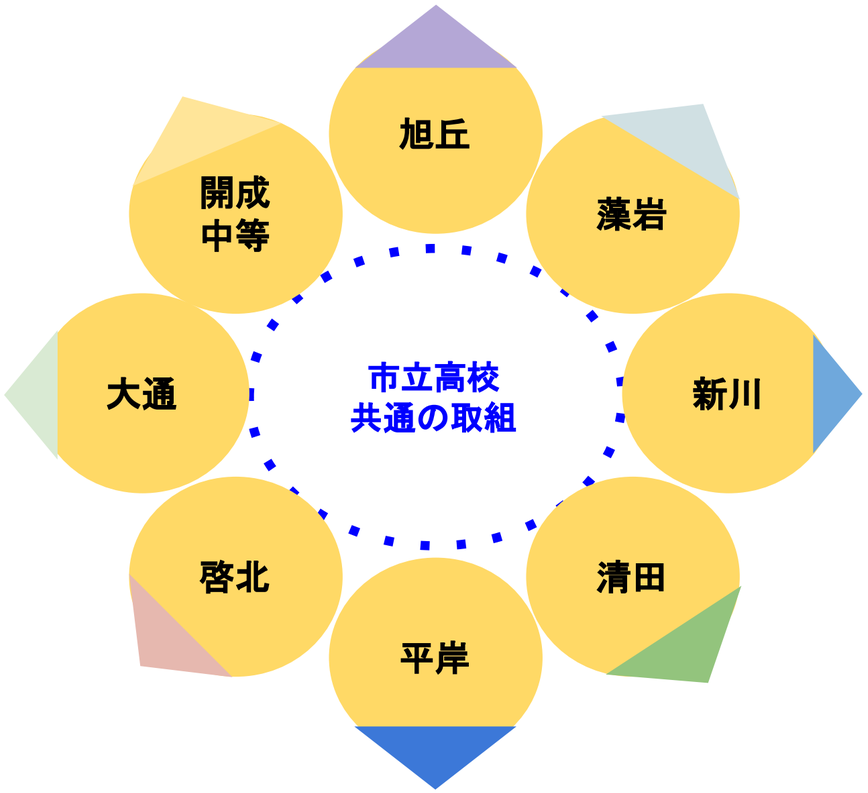
自分で選び自分でつくる学び

- 単位制［学びたい科目を選択］
- 放課後を自分でデザイン
- 生徒が主体となった学校自治［行事や仕組を自分たちでつくる］

探究的な学びの充実

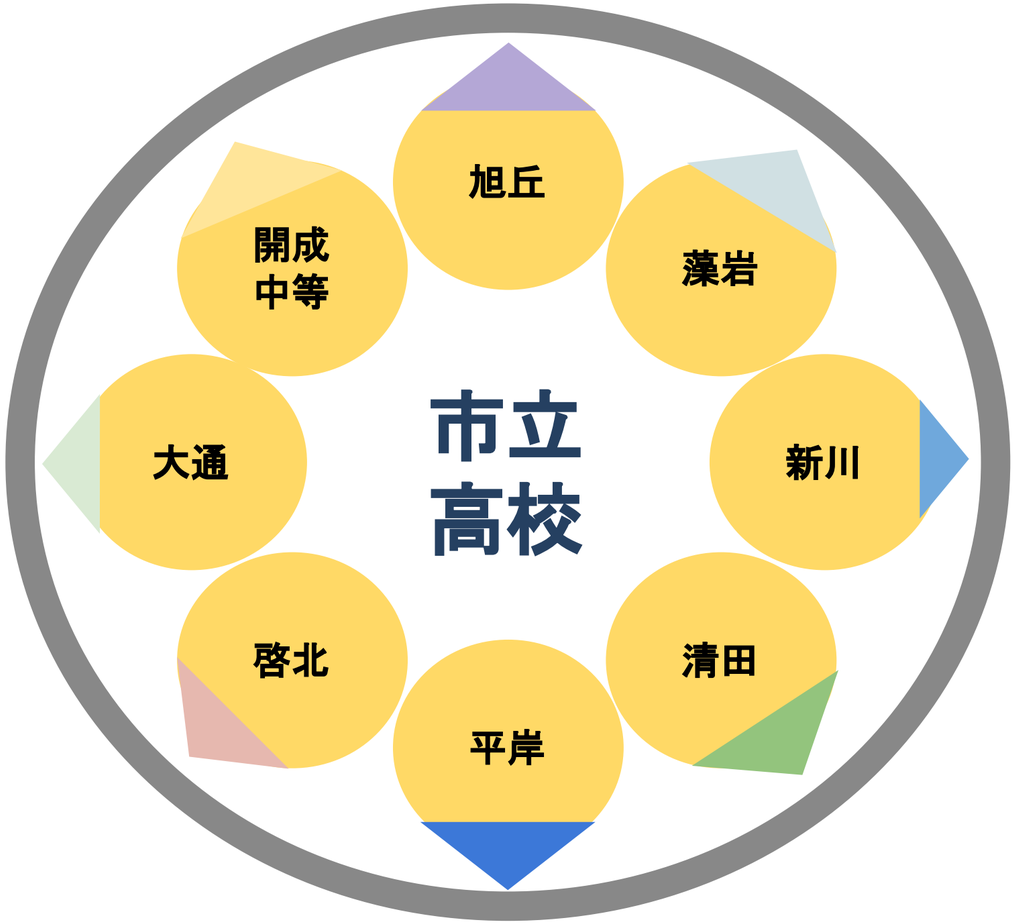
- 探究の視点を取り入れた教科学習
- 商業に関する科目［外部との連携による実践的な学び］
- 学彩探究［教科横断学習］

②市立高校合同の取組



（改革推進計画 H15～）

【現　在】



（教育改革方針 H29～）

進路探究セミナー

市立高校等8校に入学した生徒、約2,000名が
将来の生き方や進路について考えることを目的として毎年5月に開催


















学校間連携プログラム

市立高校生が相互に交流し、その成果を単位認定するプログラム



未来がちょっと好きになる
起業教育プログラム

ミラスキ

Presented by
札幌市×株式会社コエルワ×啓北商業高校

ミラスキ





まなびを文化に、そして街に個性を

探究と実践
自由に挑戦できる場です。地域課題解決や、さまざまな人びとや多様な価値観との出会い、行動を起こしましょう。

協働と進路
教授、企業、行政、地域などともに協働する中で、さまざまな人びとや多様な価値観との出会い、行動を起こしましょう。

関係醸成型の学び
小中学生や大学生対象の部活プログラムや、市内、道外、日本中の探究活動とつながることができます。各プログラムを越えて関係をつくり、今後の人生に活かしてください。

<スケジュール>
5/17　第1回／自己紹介・交流
6/14　第2回／やってみたいこと・創り出したい価値
7/12　第3回／実際に行動するための企画づくり
8/9　第4回／地域や企業など仲間あつめ
9/6　第5回／企画とりまとめ
9/14-15　／大通公園など札幌中心部で実験イベント開催
10/11 第6回／最終発表会

※プログラム終了後　3月に市立高校プレゼンテーション大会にて発表を予定
▼第1回～6回の開催時間は全て17：50～19：50
▼第1回～6回の会場は全てCoエトリ体育館（南区真駒内幸町2-2-2）
▼Discordを活用しチームごとに日々交流

企画会議：月1回金曜日17:50～19:50@真駒内

POINT 1
高校生の活動を伴走する大人がいます！
メンター サブメンター
1 TEAM

POINT 2
日本国内だてよこななめに繋がりまくります！
札幌市内の中学生、大学生の社会プログラムや全国の高校多数との共同制作も可能です。様々な大人や生徒に触れて、ぜひ高校生活力に活かしてください。

5期生大募集!!
申し込みはこちら

▼とにかく探究と実践しまくりたい人／企業・行政・地域、色んな大人と協働しながら挑戦したい人
▼特にやりたいことはないけど、学校生活、まち、社会、暮らし、生き方に、何となくモヤモヤしている人

応募締切：2024年5月10日
定員20名程度／希望者が多い場合は抽選

問い合わせ先
一般社団法人SAPPORO PLACEMAKING LABO
代表理事　林匡宏　gm000000mg@gmail.com

ゆるくつながる一最先端を感じる一実践する
学校を超えて。
まなびまくり社



札幌市立高校学校間連携プログラム
〈2024年度〉
アニマドーレ参加者募集！

アニマドーレとは？
アニマドーレは、北海道の「食」や「農」に触れながら、将来の生き方や働き方を考えることができる、食農教育&キャリア探究プログラムです。
〈アニマドーレは札幌市立高校学校間連携プログラムとして、単位認定がされています。単位認定を希望される方は、必要時間数以上の参加をお願いします〉

第9期生

アニマドーレの魅力
①多様な大人と出会える！
生産者はもちろん、デザイナー、編集者、バイヤー、教員（小中高大）、道職員、大学生など、多様な大人と関わることができます。
②初めてでも2年目でも楽しめる！
毎年プログラムを更新しているため、昨年とは違った学びができます。先輩方から関いたものに加えて新たな学びができますので、初めての方も2年目の方も、ぜひ気軽にご参加ください！
③「食」や「農」の枠を超えて！
食や農のことを誰かに伝えるためには、デザインや言葉、企画力、コミュニケーション力も大事な要素です。一見、食や農に関係なさそうに見えることを学ぶことができるのも、多様な大人が関わっているアニマドーレの魅力です！

◉エントリー期間（開始～終了）
2024年5月13日(月)～2024年6月7日(金)
◉活動期間（開始～終了）
2024年7月20日(土)～2024年12月27日(金)

SCHEDULE
7月20日(土)　農家体験バスツアー①
8月3日(土)　農家体験バスツアー②
8月24日(土)　筋農学園大学一日体験
8月31日(土)　コープさっぽろ販売体験（人数限定）
9月7日(土)　コープさっぽろ販売体験（人数限定）
9月14日(土)　アニマドーレ学校
10月5日(土)　農業・農村ふれあいフェスタin赤レンガ（ブース出展）
11月9日(土)　アニマドーレサミット（振り返り）
12月27日(金)　レポート提出〆切

食

スタッフより
プログラムに参加したことで、その後の生活や進路が変わったという生徒をたくさん見てきました。毎年、私たちが伝えたいと思っている以上のことを、高校生が感じてくれています。そんな可能性溢れる皆さんと共に学べることを楽しみにしています！ぜひ、アニマドーレの世界を感じに来てください！

お申し込みはこちら
◉定員／40名（希望者が多い場合は抽選）
◉応募締切／2024年6月7日(金)

札幌文化芸術交流センター SCARTS
Communication in Science & Technology Education & Research Program

札幌市立高校 特別プログラム

参加者募集！
あかさかな

あかさかなとは？
アートと科学の視点で魚を入り口に海の環境や漁業の課題を探り、世界や社会のしくみやつながりを考えるプログラム。
なぜ?どうして?「問い」から始まる学びの旅へでかけましょう。

こんな人におすすめ！
- 美術やデザインに興味がある
- 科学や技術に興味がある
- さかなが好き
- 海や川などの自然が好き

スケジュール
10/26（日）
10:00～11:00 オリエンテーション 講師：奥本素子（北海道大学CoSTEP 准教授）
11:00～16:00 アーティストの視点① ワークショップ 講師：OTOMONO（カロナリス・ステファノ＋齋藤恭）

11/15（土）
10:00～12:00 現場の視点 講師：本間雅広（一般社団法人DO FOR FISH 代表理事）
13:00～15:00 研究者の視点 講師：高橋勇樹（北海道大学 大学院水産科学研究院 准教授）

12/14（日）
14:00～17:00 アーティストの視点② 映画鑑賞＋トーク 講師：坂本麻人（ドキュメンタリー映像作家）

2026 2/8（日）
10:00～13:00 まとめ

オプションツアー
現代アートに触れる @札幌芸術の森美術館
展覧会「リフレクションズ-いつかの光」鑑賞

お申込はこちら
エントリー期間 ▶ 2025年 9/16（火）～30（火）
定員：20名程度（希望者が多い場合は抽選）

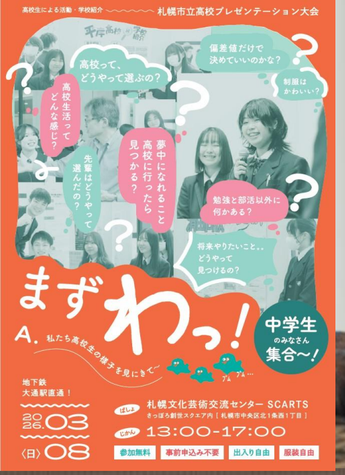
アートに触れる
アーティストの活動を知り、アート作品を鑑賞することで、新たな視点や価値観を見出す創造性を養います。

研究者に会う
北海道大学の研究者の科学的な知見に触れ、論理的に考えたり問題解決に役立つ力を育みます。

魚の未来を考える
漁業関係者の話を聞くことで、今の漁業の課題やそのための行動について考えます。

お問い合わせ
札幌文化芸術交流センター SCARTS
Email：scarts@sapporo-caf.org

主 催：札幌文化芸術交流センター SCARTS（札幌市芸術文化財団）、北海道大学CoSTEP、札幌市
協 力：札幌市教育委員会
助 成：令和7年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業











市立高校プレゼンテーション大会

市立高校の特色ある取り組みや探究学習活動について、中学生や地域の方に理解を深めていただくとともに、市立高校の生徒同士の学び合いの機会を創出





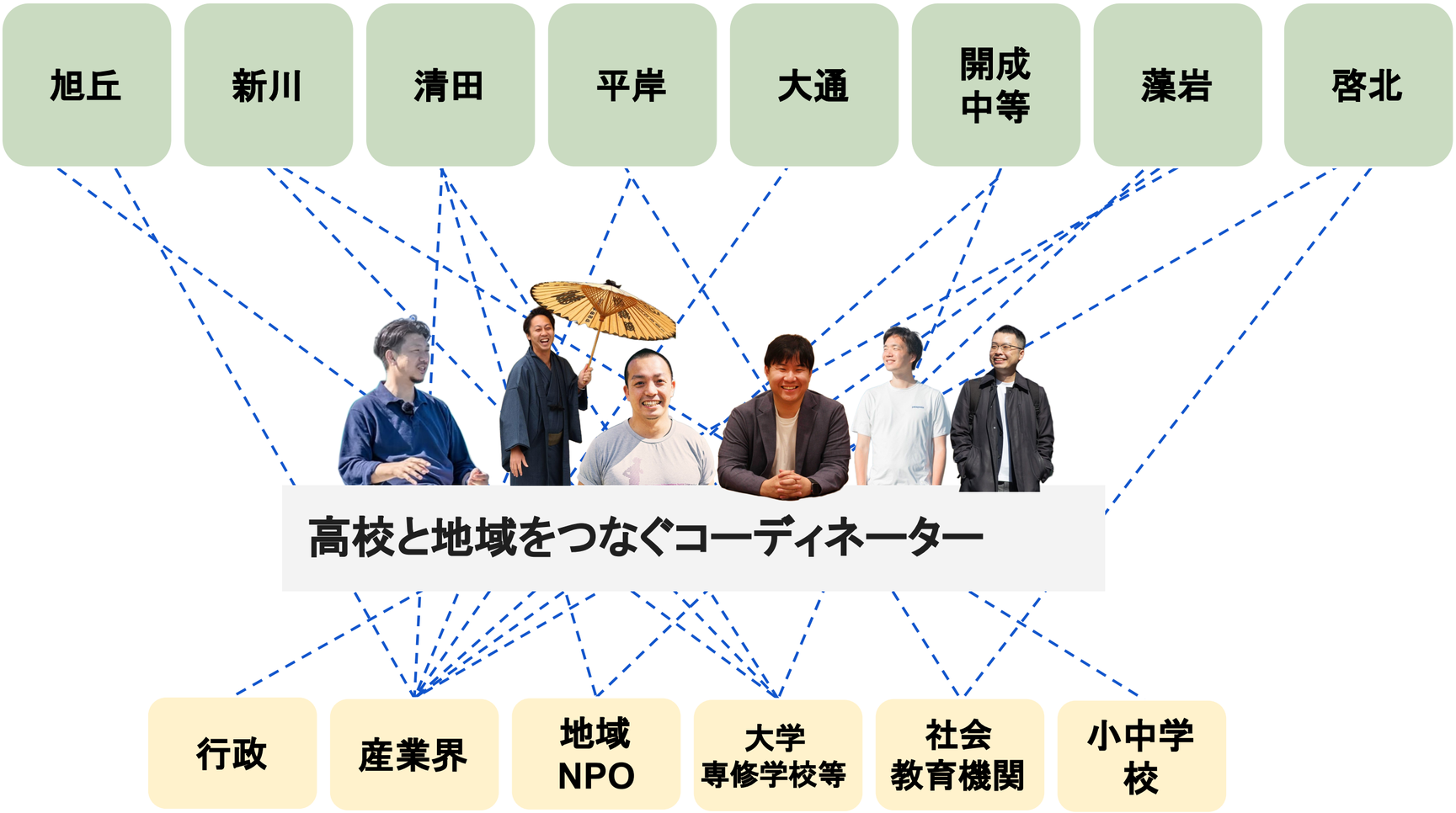






③地域等との連携・協働による学び

「高校と地域をつなぐコーディネーター」を配置し、地域や企業、大学等との連携を強化。
社会に開かれた教育課程や地域創生の核となる市立高校の実現に向けた取組を推進。









地域や企業等との連携・協働による学び

地域を学びのフィールドとして、多様な価値観に触れたり、大人と協働した活動により、
「自分たちにでもできる」という生徒一人ひとりの自信につながる学びの機会の創出









まちづくりコンペティション

市立高校生を対象とした、まちづくりに関する提案発表会
優秀賞に選ばれた提案を実際に実施するなど、
高校生ならではの視点をまちづくりに活かす取組





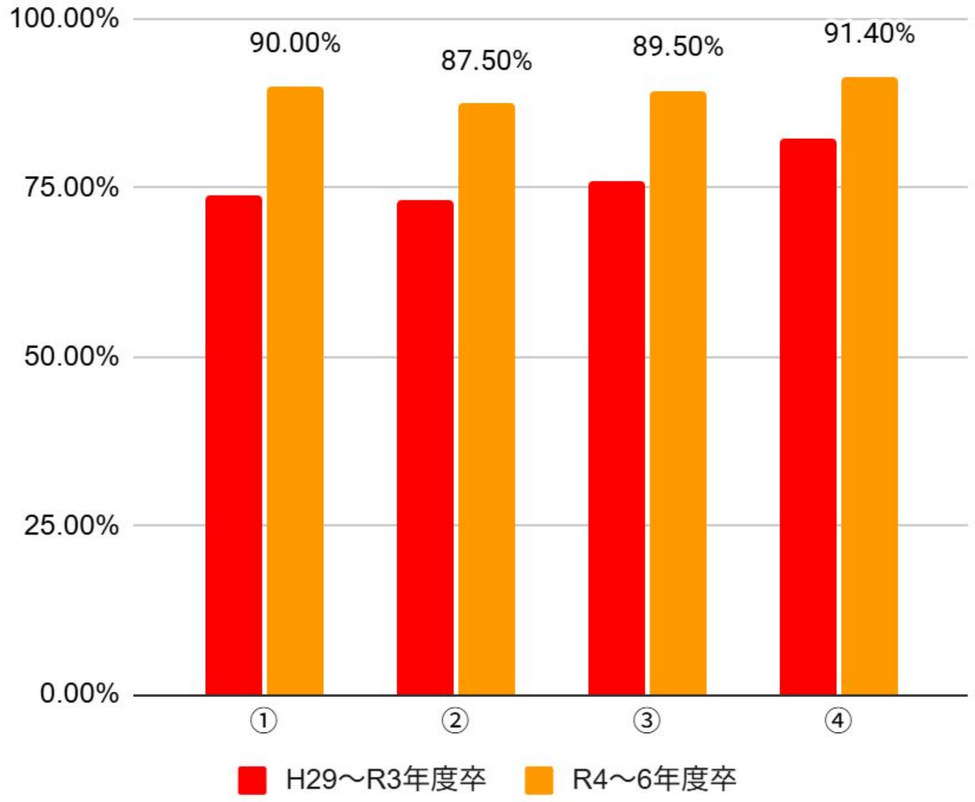


教育活動や学校生活を通じて向上した能力

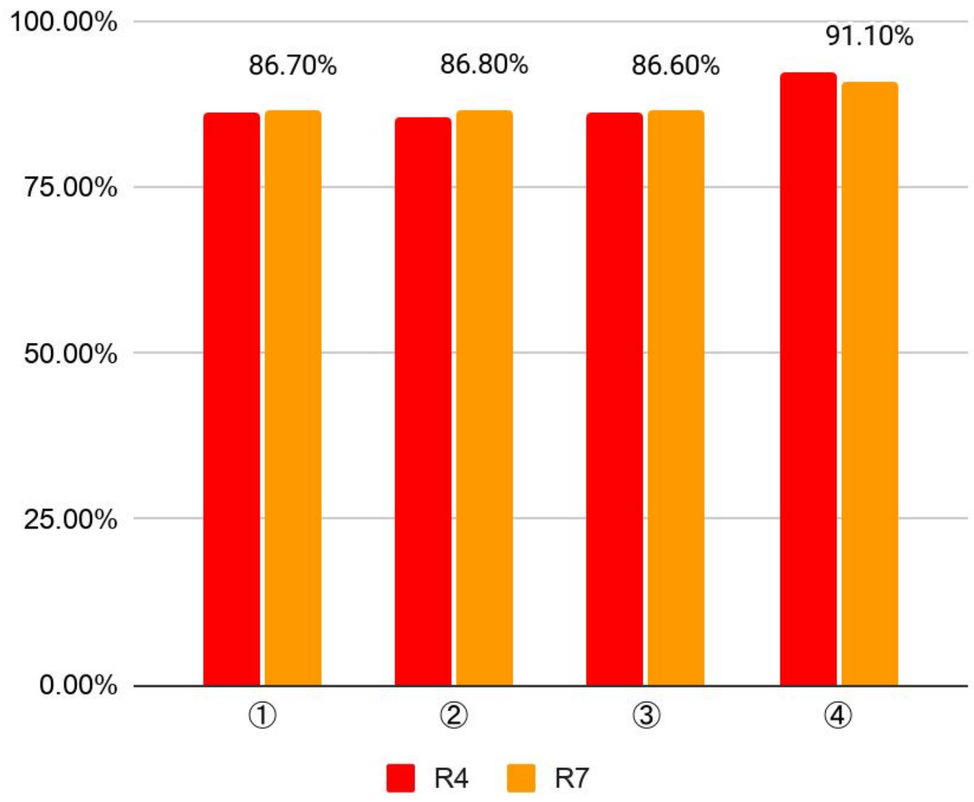
① 学んだことを応用する力　　② 課題や問題を発見する力

③ 課題や問題を解決する力　　④ 他者との共通点や違いを理解、尊重しながら協働する力

（卒業生）



（在校生）



【出典】札幌市立高校教育改革方針　検証用アンケート

教育活動や自身の現在の状況（肯定的な回答の割合）

① 教育内容の満足度

高校での教育内容は、全体的に満足のいくものだと思う。

②主体的に学ぶ力の育成

高校での学習は、主体的に学んでいく力を伸ばすことに効果があると思う。

③興味・関心の拡大

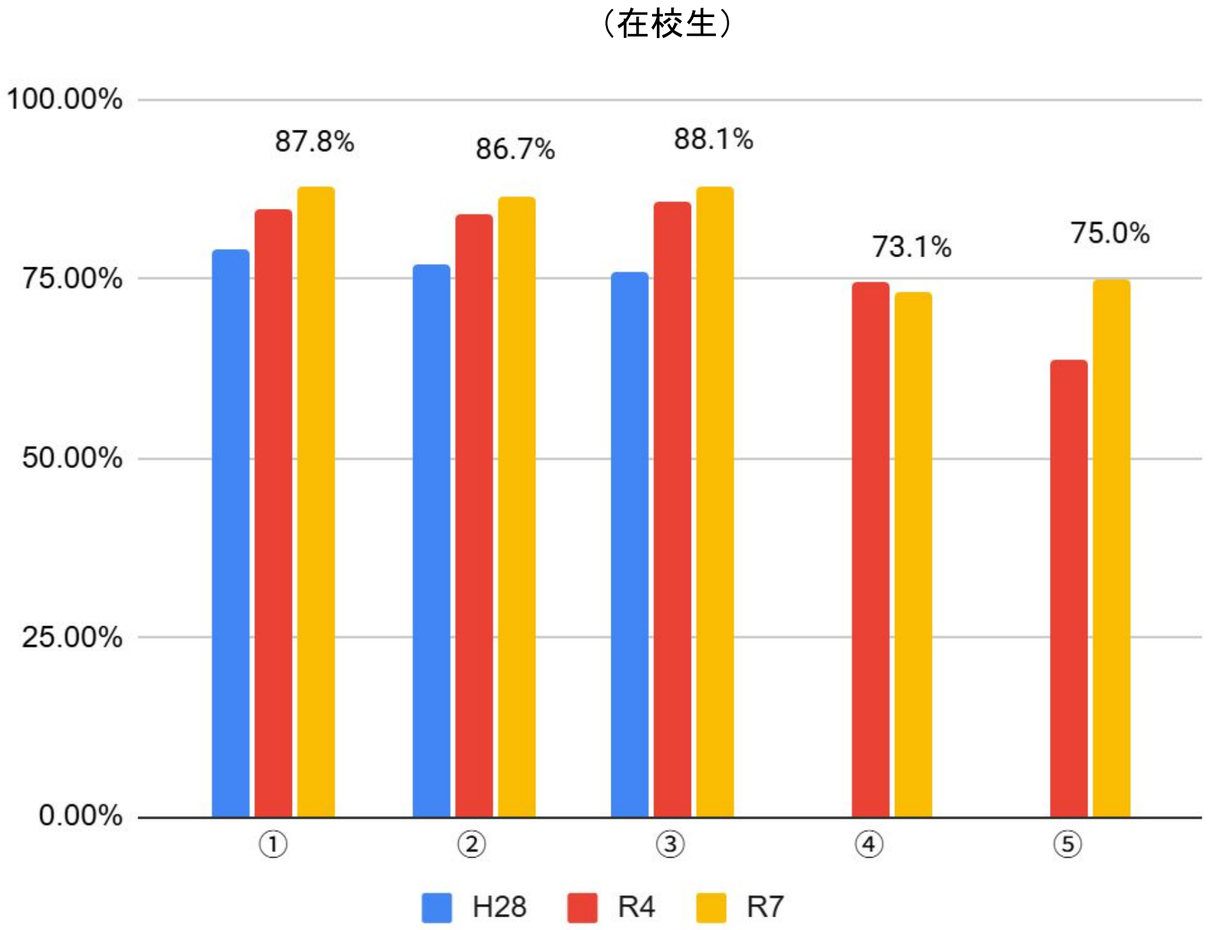
高校での学習は、自分の興味や関心を広げるものだと思う。

④自身の状況

現在の自分は自らの人生を主体的に生きていると思う。

⑤地域への貢献意識

将来的に札幌に貢献したいという意識がある。



【出典】札幌市立高校教育改革方針　検証用アンケート

教育活動や学校生活でもっと増やして欲しい学習機会

（回答が多かったもの）



【出典】札幌市立高校教育改革方針　検証用アンケート

03 卒業生の声

名達 諒 さん

2024年3月 大通高校卒業

谷　郁果　さん

2021年3月 開成中等教育学校卒業

本日の予定

01　高校教育を取り巻く現状

02　市立高校改革のあゆみ

03　卒業生の声

04　これからの市立高校について

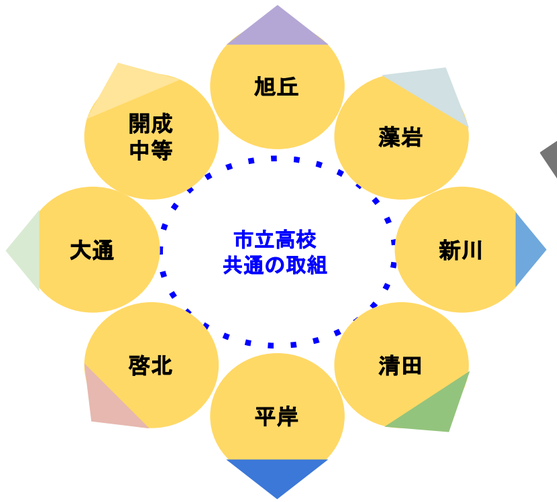
次期改革に向けた検討

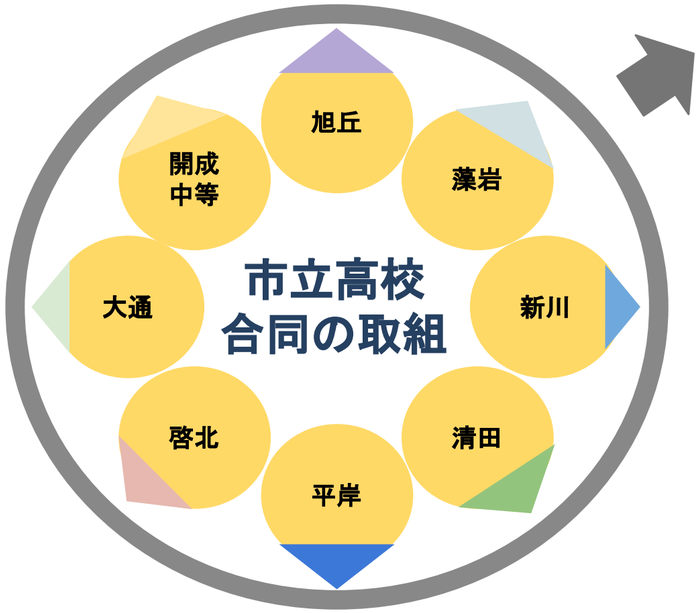
予測困難な変化の時代に、

生徒それぞれの多様な個性やニーズ、興味・関心に対応し、

生徒一人ひとりの可能性を広げ能力を最大限に伸ばす、

これからの市立高校のカタチとは？





さらなる
カタチ？

次期改革に向けた検討

検討会議

学識者や経済関係者、保護者、卒業生、学校関係者等による21名で組織



- 専門的知見
- 大局的・多角的な視点
- 外部評価

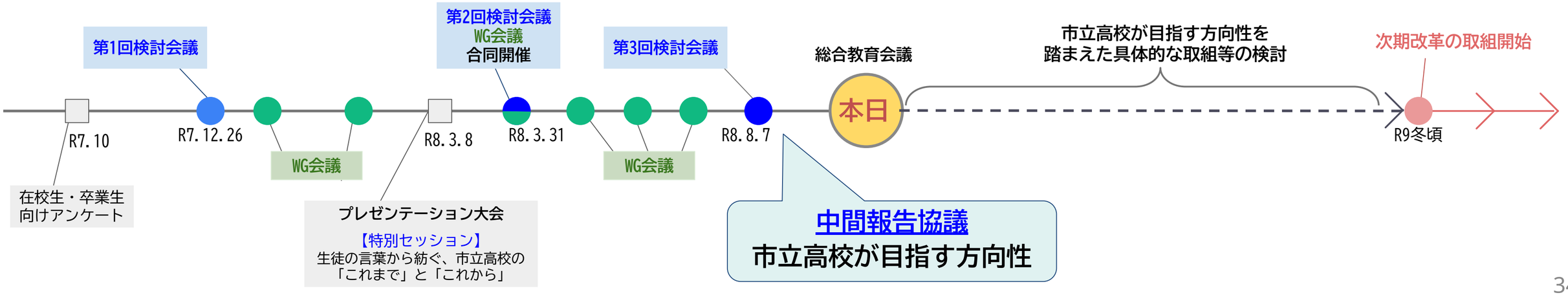
横断的連携により協議

検討ワーキング会議

市立高校教員、高校と地域をつなぐコーディネーターによる13名で組織

- 実務的な視点
- 課題抽出
- 具体的取組





検討会議・検討WG会議から出された意見

【市立高校のあり方や役割に関する意見】

〇**小・中・高の学びの連続の中での高校教育の役割**は何か、立ち戻って考える必要があるのではないか。

〇**市立高校が存在することの公共的な意味**をどう考えるか意識する必要があるのではないか。

〇まちづくりは人づくり。市が設置する高校として**札幌市が目指す都市像やまちづくりの考え方**を踏まえた取組が必要。

〇札幌全体を幸せにする教育や、**地元愛を育む教育**を期待する。

〇生徒だけではなく、生徒の学びを支える**大人同士がどう学び合っていくかという視点**も重要。

【市立高校で育む生徒に関する意見】

〇高校3年間でどのような資質・能力を身に付ける必要があるか考えたときに、社会に出ていくためには、やはり**「非認知能力」**は大事。

〇**テクノロジーへの探究心**を持ち、活用できる人材になって欲しい。グローバルな視点で、**様々なことに挑戦・チャレンジ**して欲しい。

〇「育てたい生徒像」という表現が、逆に**生徒を枠にはめてしまう**ことにはならないか。

検討会議・検討WG会議から出された意見

【学びの環境に関する意見】

〇様々な先生や社会の大人との出会いが、自身の幅を広げる機会となった。自分の芽や成長の機会に気が付けるような、**色々な扉が生徒の周りにたくさんある**といい。

〇**各校の魅力を他の市立高校の生徒も享受**できるような仕組みや、**他校の生徒と学び合える機会**がもっとあったらいいのではないか。

〇高校生活の中で**生徒全員がうまくいくわけではない**ので、誰一人取り残さないという視点で、そういう生徒に目を向けた取組みやプログラムも必要。

〇生徒の主体性を引き出すためには、**先生自身が楽しむこと**も重要。**生徒は先生の姿を見て未来にワクワク**する。

【学校や教員を支える仕組みに関する意見】

〇小・中・高・大の接続を意識し、**校種を超えた教員同士の学びの共有**も大切ではないか。

〇改革を持続的に展開していく上で、**先生方をどのように応援していくか**。個人の努力だけに委ねるのではなく、制度としてどう支えていくかが重要。

これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

＃探究
＃人口減少
＃持続可能なまちづくり
＃理系人材
＃共生
＃小中高大の接続
＃グローバル
＃ジェンダー
＃不登校
＃文理横断
＃教員の学び
＃シビックプライド
＃イノベーション
＃ＡＩ
＃多様な進路
＃挑戦
＃開かれた教育課程

各校の取組のさらなる充実、特色化に加え、
それぞれが培ってきた強みを共有資産とすることで、
単一の学校では成し得ない挑戦や多様なニーズに、

学校群（市立高校コミュニティ）として応えていく、

新たな市立高校の可能性を開く時代に突入してきたのではないか。

これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

市立高校のこれからのカタチ①

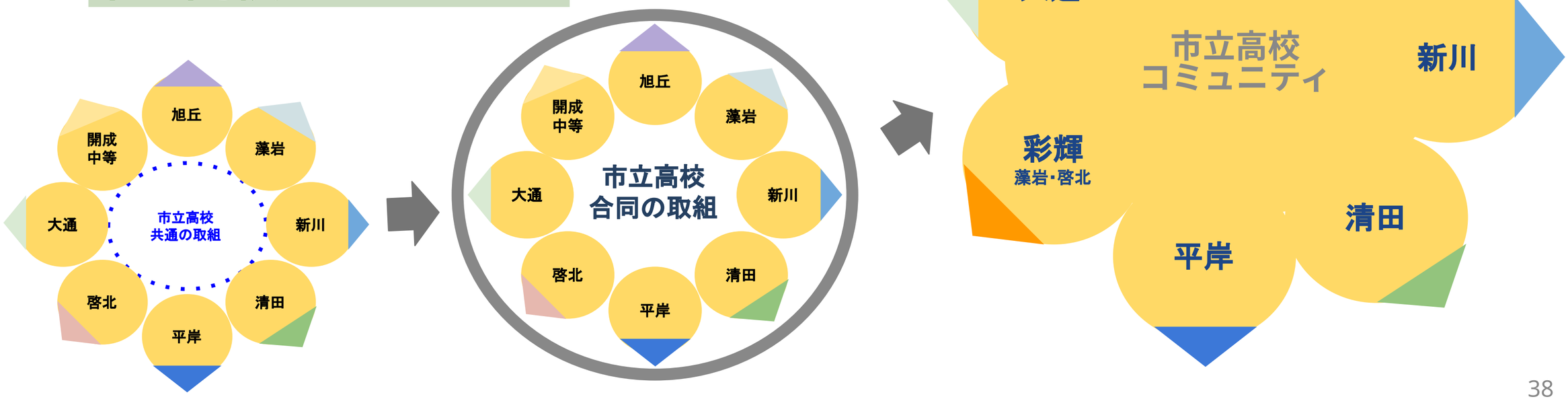
学校の枠を越えて生徒や教職員がつながり、

授業や探究プロジェクトなどの

『それぞれの学校の取組』を持ち寄って一緒に磨き上げ、

市立高校全体の学びへと高めていく連携のカタチ

市立高校コミュニティ



これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

市立高校のこれからのカタチ①

第2期札幌市教育振興基本計画が定める「札幌市の教育が目指す人間像」

自立した札幌人

- 未来に向かって新たな価値を創造し、主体的に学び続ける人
- 自他のよさや可能性を認め合い、しなやかに自分らしさを発揮する人
- ふるさと札幌に誇りをもち、持続可能な社会の発展に向けて行動する人

予測困難な時代を迎える中で、市立高校が果たすべき役割を明確化するため、

市立高校コミュニティとしての**スクール・ミッション**を新たに定義

【各校のスクール・ミッション】



これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

市立高校のこれからのカタチ①

市立高校コミュニティのスクール・ミッションの考え方

次期学習指導要領の目指す姿や国の高校改革の動向を見据えるとともに、
札幌市が掲げる「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の概念や、札幌市の教育が目指す「自立した札幌人」の育成を根幹に据え、これまでの検討会議及びWG会議での協議内容も踏まえて整理

（国の改訂審議の中で示されている次期学習指導要領の方向性）

・自らの人生を舵取りする力の育成
・民主的で持続可能な社会の創り手の育成
・「主体的・対話的で深い学び」の実装
・「好き」を育み、「得意」を伸ばす
・多様性の包摂

（国の高校教育改革に関する基本方針で示されている方向性）

・「自ら問いを立てる力」「他者とともに価値を創り出す力」の育成
・地域の経済、社会の発展を支える人材の育成
・イノベーションを興す力を底上げする起点
・学ぶことの意義を実感しながら探究的、実践的な学びを進める学習観への転換

（まちづくり戦略ビジョンが掲げるまちづくりの重要概念）

・誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会
・誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会
・新たな価値の創出に挑戦できる社会

これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

市立高校のこれからのカタチ①

第2期札幌市教育振興基本計画が定める「札幌市の教育が目指す人間像」

自立した札幌人

- 未来に向かって新たな価値を創造し、主体的に学び続ける人
- 自他のよさや可能性を認め合い、しなやかに自分らしさを発揮する人
- ふるさと札幌に誇りをもち、持続可能な社会の発展に向けて行動する人

好奇心を力に探究する場

境界を越えて共に歩む場

自分を理解し深める場

【各校のスクール・ミッション】

旭丘　藻岩　新川　清田　平岸　啓北　大通　開成中等　彩輝

これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

市立高校のこれからのカタチ①

好奇心を力に探究する場

一人ひとりの「なぜ」「知りたい」を力に、自ら問いを立て、試行錯誤や対話を重ねながら探究を深め、一人ひとりが学びの主体となる場。

自ら考え、行動し、学び続けながら未来を切り拓く力を培う。

境界を越えて共に歩む場

人や場所、文化や思想等の枠組みを飛び越え、互いを認め合い、響き合い、つながる場。

社会の一員としての責任感や協働する力を培う。

自分を理解し深める場

自己対話や他者との関わりの中で、自らの強みや弱み、関心、大切にしたい価値観等を多角的に見つめ直す場。

自己効力感・有用感を育みながら、自らの意思で人生の進路を選択設計する力を培う。

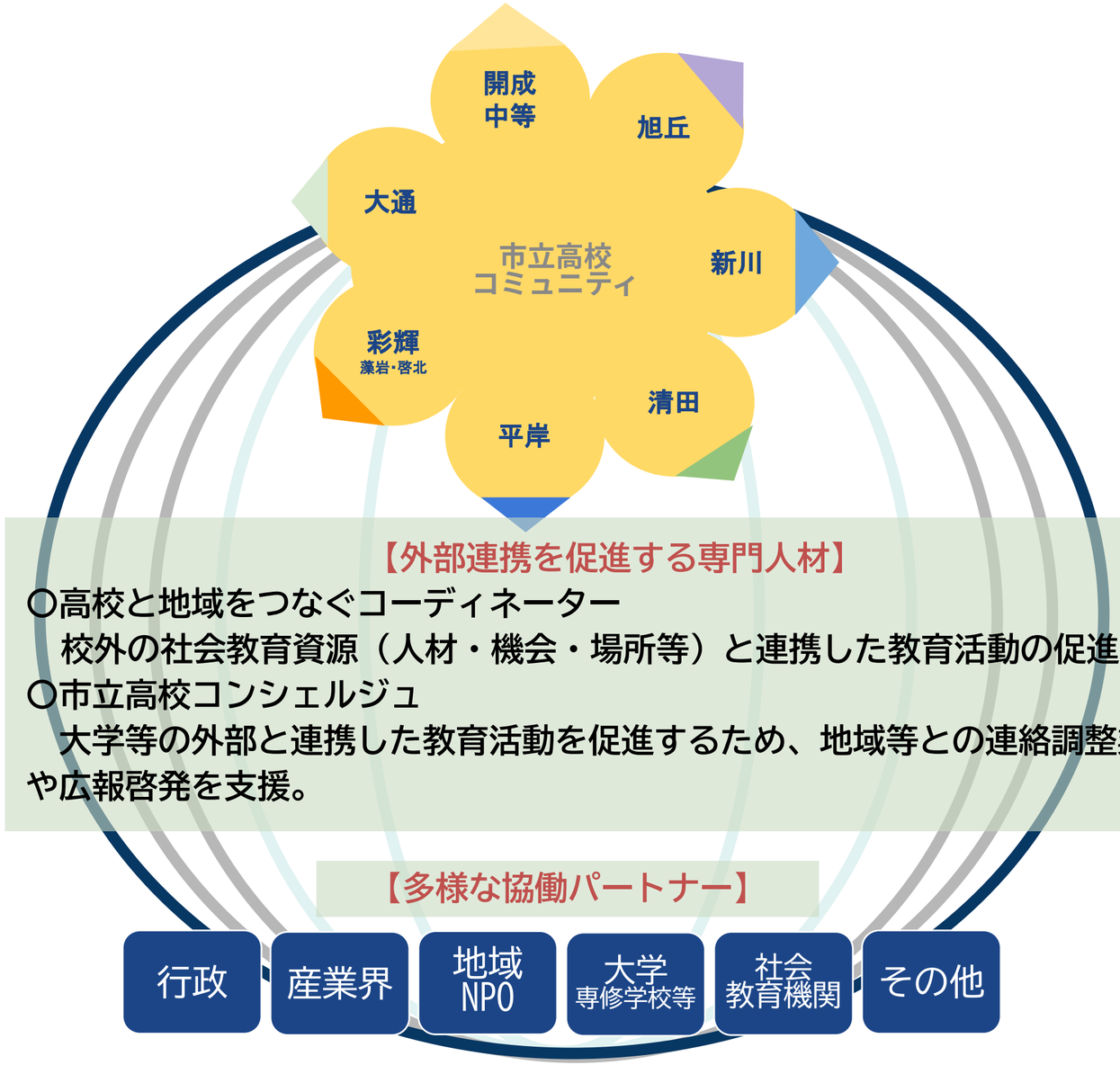
これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

市立高校のこれからのカタチ②

　市立高校・地域・企業・大学等が連携し、「各校」と「市立高校コミュニティ」の教育活動の活性化と充実を目指す協働の仕組み（コンソーシアム）。

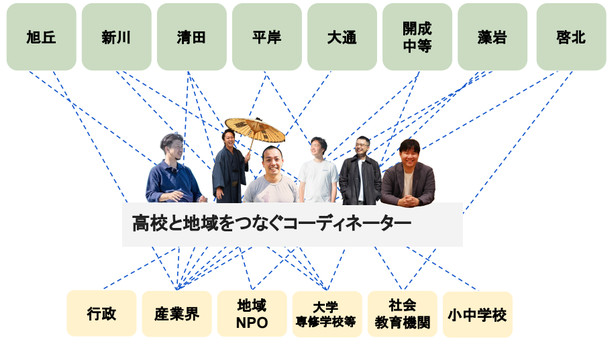
　地域を学びのフィールドとした学習活動や探究学習の推進、それらを支える教職員や大人同士がつながり・学び合う関係性の構築を通じて、
<u>持続可能な地域社会の担い手育成</u>と、
<u>高校を核とした魅力ある地域づくり</u>を目指す。



これまでの協議で見えてきた方向性

検討中

これまでは...
高校と地域をつなぐコーディネーター**人材**の配置





これからは...
取組推進の基盤となる**仕組み**の構築

【コンソーシアム構築による効果】

○ 高校に関わる様々なステークホルダーが共通の目標を持ち、一体となって教育活動の充実や生徒の資質・能力の育成、学校や教員を支える取組を展開

○ 多様な社会人等との関わりや対話の機会が増えることで、将来の生き方や進路選択の視野が広がる。

○ 各団体の多様な価値観や強みがコンソーシアム内で交わることで、新たなアイデアや取組の創出

○ 特定の教員やコーディネーターの属人的なつながりから、組織的なつながりに変わることで、持続的な協力関係を構築

○ 単なる「生徒の活動の場を広げる」ことにつながるだけでなく、関わる大人同士が学び合える場の創出

検討中

Point1【市立高校コミュニティ化】

（取組例）
・他校の特色ある授業の履修（単位認定）
・専門性の高い教員による授業を他校共有

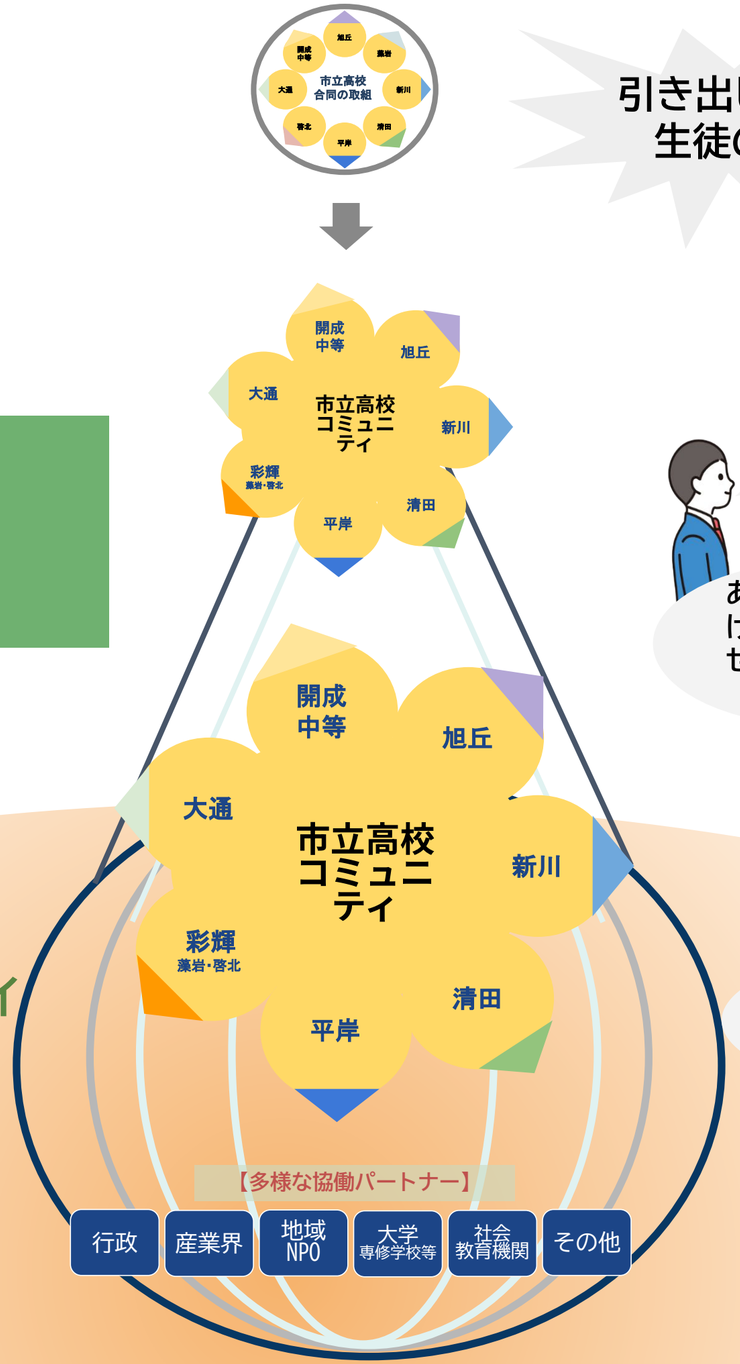
【市立高校コミュニティのスクール・ミッション】
〇 好奇心を力に探究する場
〇 境界を越えて共に歩む場
〇 自分を理解し深める場

Point2【各校のさらなる特色化】

（取組例）
・課題探究的な学習の充実
・学科、コースの充実

Point3【各校と市立高校コミュニティの取組みを支える仕組みづくり】

（取組例）
・Point1・2の充実を図るためのコンソーシアムの構築
・多様な他者との学び合い、教員の学びの場の創出



引き出したい生徒の姿

同じ市立高校でも、他校ではこんな授業があるんだ！わたしも参加してみたい！

私も〇〇高校の〇〇先生の授業を受けてみたい！

あの授業のおかげで、将来活かせそうな力がついた！

探究学習をきっかけに将来やりたいことが見つかった！

実際に社会で働く大人と触れ合う時間の中で学べる事ってたくさんあるな！

いろいろな人との対話によって、自分の考えが広がっていく！